

安保理決議第 1887 号の概要、オバマ大統領及び鳩山首相演説概要等

1. 安保理決議第 1887 号の概要¹

- **「核兵器のない世界」の構築**(前文段落 1) : NPT の目標に従い、より安全な世界を追求、「核兵器のない世界」に向けた条件を構築することを決意
- **核不拡散条約(NPT)**(前文段落 6、7、本文段落 2~6、9、17) : NPT の重要性を再確認し、2010 年運用検討会議で NPT を強化し、NPT の 3 本柱(核軍縮、核不拡散、原子力の平和的利用)につき現実的で達成可能な目標を設定するための協力を呼びかける
- **米露による核軍縮**(前文段落 10~12、本文段落 5) : 米露による START- I 後継条約に向けた交渉を歓迎。NPT 第 VI 条に基づく誠実な核軍縮交渉を要請
- **非核地帯条約・構想**(前文段落 13、14) : 非核兵器地帯条約締結への動きを歓迎・支持し、非核兵器地帯が核不拡散体制を強化し核軍縮に貢献することを確認
- **市民社会の貢献**(前文段落 23) : NPT の目的を推進する上での市民社会の貢献に留意
- **包括的核実験禁止条約(CTBT)**(本文段落 7) : 全ての国が核実験を行わず、CTBT を署名・批准し、条約の早期発効を要請
- **カットオフ条約**(本文段落 8) : 2009 年に作業計画がコンセンサス採択されたことを歓迎、早期に条約交渉の開始を要請
- **北朝鮮・イラン**(前文段落 15、16、本文段落 10) : 前文で関連安保理決議を再確認、本文では「国連安保理が対処してきた不拡散体制に対する現下の主要な挑戦」として北朝鮮及びイランを暗示しつつ、関係当事国に関連安保理決議の遵守を要求
- **IAEA**(本文段落 12、14~16、18) : IAEA 保障措置は核不拡散と原子力の平和的利用のための協力推進に不可欠。追加議定書への署名・批准・実施を要請。IAEA の資源と権威の確保が重要
- **原子力の平和的利用**(本文段落 11、12) : NPT 第 IV 条の平和利用の「奪い得ない権利」を確認。核拡散のリスクを低減し、保障措置(Safeguards)、核セキュリティ(Security)、原子力安全(Safety)について最高レベルの規準を遵守しつつ原子力平和利用の推進を奨励。
- **核燃料サイクルの多国間管理**(本文段落 14) : 多国間管理(核燃料供給保証を含む)は核燃料と役務の需要増大に対処し、拡散リスクを削減する効果的手段。出来る限り早く構築に向けた措置に合意するよう IAEA 理事会を促す。
- **核テロ対策**(前文段落 18、20~22、本文段落 21、24~27) : 核テロへの懸念を表明。来年の核セキュリティ・サミットを支持。機微物質や技術の移転管理、金融・輸送面など、具体的な措置を講じていくことをすべての国に呼びかける
- **非国家主体への大量破壊兵器拡散防止**(前文段落 24、本文段落 22、23) : すべての国連加盟国が安保理決議 1540 の完全な履行のために協力することを要請

2. オバマ大統領演説概要²

- **オバマ大統領**は、露国との間で戦略核弾頭と運搬手段を大幅削減する新たな合意を追及すること、CTBT の批准促進、カットオフ条約交渉開始等と呼びかけた。概要は以下の通り
 - ✓ 現在、我々は新たな戦略やアプローチを必要とする核拡散の拡大とその複雑さに直面している。今回採択した決議は「核兵器のない世界」との目的に向けた我々の共通のコミットメントを記したものであり、核の脅威削減への大きな枠組み構築のために安保理合意を持ち込んだもの
 - ✓ 今回の決議はNPTを強化するものとなる。安保理は国際的な平和と安全を脅かす NPT 違反に対応、必要な決定を行う権威と責任を有し、イランと北朝鮮に関する安保理決議もこれに含まれる。我々は NPT の責務を果たしている全ての国の権利のために立ち上がらなければならない
 - ✓ 今回の決議及び我々の努力によって核兵器の拡散と使用を防ぐことができるか、今後の 12 ヶ月が重要。すべての国がその役割を果たしていく必要がある。米国は露国との戦略核兵器削減のための新しい条約交渉を開始、CTBT の批准を促進し、保有核弾頭の削減やカットオフ条約交渉開始を呼びかけ、来年 1 月の NPT 運用検討会議でその合意を強化する

3. 鳩山首相演説概要³

- **鳩山首相**は、日本は世界で唯一の被爆国が果たすべき道義的な責任として核軍拡の連鎖を断ち切る道を選択したこと、日本が非核三原則を堅持し核廃絶を先導していくこと、オバマ大統領がプラハで述べた「**核兵器のない世界**」に共鳴を示し、以下を表明
 - ✓ **1. 核保有国に対して核軍縮**を求める。非核兵器地帯の創設は 5 核兵器国と地域の非核兵器国との連携の下で進めることができれば、核軍縮と拡散防止、ひいては世界と地域の平和と安定という目的に資するものとなり得る
 - ✓ **2. CTBT の早期発効、カットオフ条約の早期交渉開始**を強く訴える。カットオフ条約によって「持てる国」の核兵器生産能力を凍結することは、核軍縮・不拡散の双方に貢献することになり、NPT 体制をより平等なものにするために不可欠な措置
 - ✓ **3. 日本自身が核軍縮・不拡散を主導する積極的な外交を展開**する。国連総会における核軍縮決議の提案、日豪核不拡散・核軍縮に関する国際委員会の活動支援、IAEA の技術・専門性及び資源を強化するための取組を進める。また IAEA 天野次期事務局長の果たす役割にも期待し、サポートしていく
 - ✓ **4. 新たな核拡散の動きに対し、積極的に対応**する。北朝鮮による核開発は我が国を含めた国際の平和と安全に対する脅威であり、断固として認めるわけにはいかず、国連安保理決議第 1874 号の実効性を高めるため、更に必要

な措置をとる。イランの核問題に対しても懸念しており、核不拡散に果たす国連安全保障理事会の役割は今後ますます高まっており、その強化を求める。来年の核セキュリティ・サミットにも貢献したい

- ✓ **5. 原子力の平和利用**にあたり、拡散のリスクを低減し、保障措置・核セキュリティ・原子力安全の各項目について最高レベルの水準を遵守することが必要でと考える

4. ブラウン首相、メドヴェージェフ大統領、胡錦濤国家主席等

- **ブラウン首相(英国)**は核戦略体制縮小の一環としてトライデント核ミサイルを搭載する原潜数を4から3に減らすこと、また最小限の核抑止力を保持すること⁴、**メドヴェージェフ大統領**は、START-I 後継条約を本年12月までに署名したいとの意向、**胡錦濤国家主席**は、米露の核軍縮を要請した他、無条件の先制不使用と消極的安全保障政策を強調⁵

¹ 出典は「核不拡散・核軍縮に関する安保理首脳会合における安保理決議1887号の採択(概要)」、http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/un_cd/gun_un/anpori_k09_1887g.html。ただし本文との関連上、概要項目の「核燃料サイクルの多国間管理」については、決議文の英語オリジナル(“Resolution 1887 (2009) Adopted by the Security Council at its 6191st meeting, on 24 September 2009”、<http://daccessdds.un.org/doc/UNDOC/GEN/N09/523/74/PDF/N0952374.pdf?OpenElement>)の当該部分を訳し、上記の「核不拡散・核軍縮に関する安保理首脳会合における安保理決議1887号の採択(概要)」からの引用に加えて記載

² REMARKS BY THE PRESIDENT AT THE UNITED NATIONS SECURITY COUNCIL SUMMIT ON NUCLEAR NON-PROLIFERATION AND NUCLEAR DISARMAMENT
http://www.whitehouse.gov/the_press_office/Remarks-By-The-President-At-the-UN-Security-Council-Summit-On-Nuclear-Non-Proliferation-And-Nuclear-Disarmament/

³ 核不拡散・核軍縮に関する安保理首脳会合鳩山総理演説、
http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/enzetsu/21/ehat_0924b.html

⁴ “Prime Minister prepared for nuclear weapons reductions”、<http://www.number10.gov.uk/Page20709>

⁵ 「核不拡散・核軍縮に関する安保理首脳会合(概要と評価)」、
http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/un_cd/gun_un/anpori_k09_gh.html